

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	客観的臨床能力演習 I	授業時期	後期	授業時数	30/60
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約40年	担当者	河元 岩男	授業方法	講義・演習	単位数	1/2
到達目標	1. 解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、関節運動学を理解し、それらを基に、特殊テクニックを習得する。 2. 統合と解釈の考え方が理解できる。			評価方法			
授業概要	関節可動域運動について理解し、維持のための運動と改善のための軟部組織モビライゼーションおよび関節モビライゼーションを実施します。また、機能障害と活動制限の因果関係の分析、目標の考え方、理学療法プログラム立案の考えかたの基本となる統合と解釈についても学びます。			定期試験(筆記試験、実技試験) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE、機能障害・能力低下への介入 整形徒手理学療法、運動療法 I	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	関節可動域運動、維持と改善						
第2週	肩関節						
第3週	肩関節						
第4週	肘・前腕、手関節						
第5週	上肢のまとめ、確認演習						
第6週	股関節						
第7週	膝関節						
第8週	足関節						
第9週	下肢のまとめ、確認演習						
第10週	脊柱						
第11週	関節可動域運動のまとめ、確認演習						
第12週	統合と解釈1						
第13週	統合と解釈2						
第14週	統合と解釈3						
第15週	まとめ、試験対策						
授業外学習指示等	予習として教科書をみておくことが大切。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	客観的臨床能力演習Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30/60
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約40年	担当者	河元岩男	授業方法	講義・演習	単位数	1/2
到達目標	今までの授業の集大成とし、一連の復習を行う ・各評価項目の知識の整理と測定方法を復習する ・評価の流れを理解する			評価方法			
授業概要	臨床実習を控えた学生に、知識・技能・態度の3領域の再学習を行う。 臨床で遭遇するであろう事象を繰り返し学習し、演習する事によって 臨床実習を実り多きものにする事をねらいとする。			定期試験(筆記試験、実技試験) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE、コミュニケーションと介助・検査測定編 理学療法評価学	使用器材	評価道具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	客観的臨床能力とは、標準予防策、リスク管理、療法士面接 バイタルサイン						
第2週	脈拍と血圧						
第3週	関節可動域測定						
第4週	筋力測定						
第5週	第1週～4週の確認演習						
第6週	形態測定						
第7週	整形外科疾患別検査						
第8週	感覚検査						
第9週	反射検査						
第10週	第6週～9週の確認演習						
第11週	脳神経検査						
第12週	脳卒中の麻痺側運動機能の評価						
第13週	運動失調検査						
第14週	立位バランスの評価						
第15週	第11週～14週の確認演習、まとめ、試験対策						
授業外 学習指示等	復習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	呼吸器・循環器疾患患者への理学療法経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	病態に応じた理学療法プログラム評価実施することができる。 病態に応じた理学療法プログラムを立案することができる。 呼吸介助手技や運動指導を実施できる。			評価方法			
授業概要	呼吸器系疾患とがんのリハビリについて学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	最新 理学療法講座 内部障害理学療法学	使用器材	聴診器・吸引シミュレーターQちゃん				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総 論						
第2週	呼吸器の構造						
第3週	呼吸機能評価①						
第4週	呼吸機能評価②						
第5週	呼吸機能検査						
第6週	慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
第7週	気管支喘息・肺水腫						
第8週	間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群						
第9週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技①						
第10週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技②						
第11週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技の実技テスト						
第12週	人工呼吸管理と理学療法						
第13週	気道内分泌物吸引法及び実技						
第14週	がんのリハビリ ①						
第15週	がんのリハビリ ②						
授業外 学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	呼吸器・循環器疾患患者への理学療法経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	循環器障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。代謝障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。			評価方法			
授業概要	循環器障害・代謝障害を系統別に分類し、障害を引き起こす疾患の成り立ちを解説した上で理学療法の基礎的なガイドラインを提示し、基本的な治療方法を実践する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	最新 理学療法講座 内部障害理学療法学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	循環器系の解剖学・生理学						
第2週	循環器系の生理学						
第3週	循環不全の病態と呼吸器疾患（心不全の病態）						
第4週	循環不全の病態（心筋虚血の病態）						
第5週	循環不全の病態 大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症の病態）						
第6週	循環不全の病態（DVTの病態）						
第7週	循環器理学療法のための評価（Ⅰ）						
第8週	循環器理学療法のための評価（Ⅱ）						
第9週	循環器理学療法基本手技（運動処方）						
第10週	循環器理学療法基本手技						
第11週	代謝疾患(糖尿病)総論						
第12週	代謝疾患(糖尿病)の生理学						
第13週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法評価						
第14週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	神経・筋障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	神経・筋障害系疾患の病態と症状、理学療法評価・治療について理解できる。臨床においてプログラムの応用ができるように学習する。基礎的な解剖生理学から病態のイメージが一致する事でより深く理解を深める。			評価方法			
授業概要	脊髄損傷、脊髄小脳変性症、多発性硬化症等の疾患の基礎を学習し、その知識に基づき臨床における評価、理学療法のプログラム作成に役立てる。			中間試験 40% 期末試験 60% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	神経筋障害理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション、中枢神経の解剖評価						
第2週	脊髄損傷の症状・合併症						
第3週	脊髄損傷の損傷高位と評価						
第4週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作①						
第5週	脊髄損傷の機能残存レベルと動作②						
第6週	脊髄損傷の理学療法						
第7週	脊髄小脳変性症						
第8週	筋萎縮性側索硬化症						
第9週	多発性硬化症						
第10週	ギランバレー症候群						
第11週	筋ジストロフィー基礎						
第12週	筋ジストロフィー評価・理学療法						
第13週	総まとめ						
第14週	国家試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習事項の指示を行うので、各自が予習をしたうえで授業に臨むこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	中枢神経の全容						
第2週	中枢神経の全容						
第3週	片麻痺の原因						
第4週	片麻痺の原因						
第5週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第6週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第7週	片麻痺の評価①						
第8週	片麻痺の評価①						
第9週	片麻痺の評価②						
第10週	片麻痺の評価②						
第11週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第12週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第13週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第14週	演習①						
第15週	演習②						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当者	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第2週	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第3週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ①						
第4週	片麻痺 日常生活における身体機能の活用 ②						
第5週	片麻痺 基本動作 車いす操作						
第6週	片麻痺 合併症とその対策						
第7週	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法						
第8週	演習1						
第9週	演習1						
第10週	演習1						
第11週	運動失調とは						
第12週	小脳性運動失調の理学療法						
第13週	小脳性運動失調の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第14週	パーキンソン病とは						
第15週	パーキンソン病の理学療法						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	介護老人保健施設、訪問リハの経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 介護保険の仕組みについて説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおいて、理学療法士の役割や仕事について説明ができる。			評価方法			
授業概要	1 地域リハビリテーションとは何かを理解し、介護保険制度の知識を深める。 2 地域リハビリテーションに関する様々な制度を理解する。 3 高齢者の特徴を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	地域リハビリテーション学テキスト	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	地域リハビリテーション学総論						
第2週	地域リハビリテーションの考え方						
第3週	介護保険制度下のリハビリテーション						
第4週	介護保険サービス概論						
第5週	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割						
第6週	地域支援事業の中での理学療法士の役割						
第7週	介護保険サービス下での理学療法士の役割						
第8週	介護老人福祉施設での理学療法士の役割						
第9週	介護老人保健施設での理学療法士の役割						
第10週	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第11週	通所リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第12週	通所介護での理学療法士の役割						
第13週	理学療法士が考える施設における体操・レクリエーションについて						
第14週	国試対策(地域リハビリテーション分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	物理療法機器を一人でも扱えるようになる。 各種機器の治療特性を理解する。 疾患別に治療器を選べるようになる。			評価方法			
授業概要	各種物理療法機器の取り扱い方と実技を行い技法を習得する。			実技試験 60% 中間テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキスト 物理療法	使用器材	物理療法機器				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	温熱療法実技 ① ホットパック						
第2週	温熱療法実技 ② パラフィン						
第3週	温熱療法実技 ③ 極超短波						
第4週	温熱療法実技 ④ 超音波						
第5週	寒冷療法実技 アイスマッサージ						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	光線療法実技 紫外線、赤外線、レーザー						
第8週	水治療法実技 ① 過流浴						
第9週	水治療法実技 ② ハバードタンク						
第10週	小テスト2 授業アンケート						
第11週	電気療法実技 ① 低周波						
第12週	電気療法実技 ② 干渉波						
第13週	牽引療法実技 頸椎、腰椎						
第14週	マッサージ実技 マッサージ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業ではより多く機械に触れ、臨床で扱えるようにしましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験13年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	組織再生・修復(組織の基本的な修復過程、各組織の再生・修復過程、治療理論)						
第2週	骨折と脱臼(骨折の病態・治癒過程・症状・合併症・診断、脱臼の分類・治療)						
第3週	骨折と脱臼 高齢者の四大骨折(橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折)						
第4週	変形性股・膝関節症(変形性股関節と変形性膝関節症の病態と治療)						
第5週	人工股・膝関節置換術(人工股・膝関節全置換術、術所見読解、人工関節術後の合併症)						
第6週	関節リウマチ(関節リウマチと類似疾患の病態、診断基準、関節破壊、関節変形、治療)						
第7週	末梢神経損傷(末梢神経損傷の病態・原因・臨床症状・治療・理学療法)						
第8週	頸部疾患(代表的な頸部疾患、頸部疾患における理学療法)						
第9週	腰部疾患(代表的な腰部疾患、腰部疾患における理学療法)						
第10週	脊椎手術(脊椎の手術と理学療法、手術を理解するための基礎知識)						
第11週	肩関節周囲炎(肩関節周囲炎と類似疾患、整形外科的治療、評価、理学療法)						
第12週	肩の外傷(腱板断裂、外傷性肩関節脱臼、関節唇損傷)						
第13週	膝靭帯損傷と半月板損傷(前十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷)						
第14週	捻挫と肉離れ(靭帯損傷、足関節の捻挫、アキレス腱損傷、ハムストリングスの肉離れ)						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験13年	担当者	山本 裕晃	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法の評価、治療について、実技を通して学習する。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	組織再生・修復(炎症の5徴候のチェックポイント、炎症に対する一般的治療)						
第2週	骨折と脱臼(骨折と脱臼の評価と理学療法、肘関節内骨折、脛骨近位端骨折、肩関節脱臼など)						
第3週	骨折と脱臼 高齢者の四大骨折(高齢者の理学療法の評価、骨折予防トレーニング)						
第4週	変形性股・膝関節症(変形性関節症に対する保存療法、術前評価、術後の理学療法など)						
第5週	人工股・膝関節置換術(人工股・膝関節全置換術の脱臼予防、日常生活動作トレーニングなど)						
第6週	関節リウマチ(評価、運動療法、物理療法、ADL指導)						
第7週	末梢神経損傷(末梢神経損傷における理学療法評価、理学療法)						
第8週	頸部疾患(頸部疾患における理学療法評価、理学療法)						
第9週	腰部疾患(代表的な腰部疾患、検査測定の実際、理学療法の実際)						
第10週	脊椎手術(脊椎手術後における理学療法評価、術後理学療法プログラム)						
第11週	肩関節周囲炎(肩関節周囲炎に対する評価・理学療法)						
第12週	肩の外傷(外傷による肩関節障害に対する評価・理学療法)						
第13週	膝靭帯損傷と半月板損傷(評価の意義・目的、検査・測定の実際、術後の理学療法)						
第14週	捻挫と肉離れ(靭帯損傷、足関節の捻挫、アキレス腱損傷、ハムストリングスの肉離れ)						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	生活環境論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	家屋改修を含めた生活環境調整経験有り	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 疾患や障害と生活環境の関係を理解できる。 2. 住環境の必要性や具体例を理解できる 3. 代表的な自助具や福祉機器について理でできる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学ぶ。 理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか学ぶ。			期末試験 80% 課題提出 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材	パソコン 配布資料、福祉用具				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	総論						
第2週	生活環境論とは						
第3週	生活機能の把握(国際障害分類、国際生活機能分類)						
第4週	生活に関与する環境因子(個人と「もの」の関係、個人と「人」の関係、個人と「空間」の関係)						
第5週	バリアフリーの関連諸制度(障害者施策の展開とバリアフリー対策)						
第6週	バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン(ユニバーサルデザイン7つの原則)						
第7週	バリアフリー・ユニバーサルデザイン調査						
第8週	住環境 意義(高齢者・障害者に対する住環境整備、住環境に対する理学療法士の関わり)						
第9週	住環境 流れと注意点(評価、検討、実施、完成後検査、フォロー)						
第10週	住環境 整備対策(基本視点、共通事項、部屋別アプローチ)						
第11週	福祉用具 種類と機能(杖と車椅子における種類と機能)						
第12週	福祉用具 国家試験対策(杖と車椅子における種類と機能)						
第13週	福祉用具 校外授業を通じた福祉用具の使用方法を実習						
第14週	福祉用具 校外授業を通じた福祉用具の使用方法を演習						
第15週	事例検討						
授業外学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	臨床経験12年	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.運動療法機器の使用方法和注意点を理解し、説明できる 2.関節可動域制限に対するアプローチの説明と実践ができる 3.筋力増強及び持久力増強に対するアプローチの説明と実践ができる 4.協調運動や神経筋再教育について説明でき、実践ができる			評価方法			
授業概要	理学療法士にとって必要不可欠な運動療法の理論と実践手技を学び、理学療法業務のイメージを整え、臨床実習及び国家試験対策へと結びつける。			定期試験(筆記、実技) 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法学テキストⅢ 運動療法Ⅰ	使用器材	治療用ベルト・楔・マシン器具など				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動療法機器に対する基本的な考え方・使用目的・注意点など						
第2週	筋力増強運動の考え方と運動負荷設定方法について(マシン、動作)						
第3週	筋力増強運動の考え方と運動負荷設定方法について(グループワーク)						
第4週	筋持久力の評価と筋持久力運動の負荷設定方法について						
第5週	筋持久力の評価と筋持久力運動の負荷設定方法について(グループワーク)						
第6週	全身持久力の評価と全身持久力の負荷設定方法について						
第7週	全身持久力の評価と全身持久力の負荷設定方法について(グループワーク)						
第8週	小テスト① 補足						
第9週	モーターコントロールについて 理論と実践						
第10週	スポーツリハビリテーション、リハビリテーショントレーニングについて						
第11週	全身調整運動・機能回復運動・リラクゼーション運動の実践						
第12週	協調性の改善のための運動方法について						
第13週	神経筋再教育について～固有受容性神経筋促通法や、Bobath手技～						
第14週	小テスト② 補足						
第15週	まとめ 国家試験対策含む						
授業外 学習指示等	解剖学、生理学、運動学を復習しておきましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	発達障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在心身障害児施設に勤務中	担当者	小倉 秋奈	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 正常発達、反射の理解や流れを把握し、述べることができる。 2 各疾患の特徴を理解し、リハビリについて知識を深められる。 3 「小児理学療法とは何か」を理解することができる。			評価方法			
授業概要	発達障害について、総合的、体系的に学習する。 正常児の発達を学習した後、運動発達障害児について学習する。 小児の疾患の特徴を理解し、理学療法を実施する上で必要となる 評価介入の概要と構成要素を学習する。			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	小児理学療法学テキスト 改訂第3版	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション、胎児期・新生児期の正常運動発達						
第2週	正常運動発達(1)						
第3週	正常運動発達(2)						
第4週	正常運動発達(3)						
第5週	正常運動発達(4)						
第6週	姿勢反射の発達						
第7週	発達・運動発達の評価と運動発達の理論						
第8週	脳性麻痺(1)						
第9週	脳性麻痺(2)						
第10週	筋ジストロフィー						
第11週	重症心身障害児						
第12週	低出生体重児・ハイリスク児						
第13週	発達障害児						
第14週	ダウン症						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	「小児のリハビリは難しい」という考えをまずはなくし、「子ども」の成長をまずは知ることから頑張っていきましょう。理解するには時間がかかりますが、楽しく「子ども(小児)」について学んでいきましょう。						